

三木市消防本部

# 50周年記念誌

三木市消防本部

平成27年発刊

# 三木市消防本部50周年記念誌

MIKI CITY FIRE DEPARTMENT  
50TH ANNIVERSARY

三木市消防本部

平成27年発刊

# 日本一美しいまち 三木にむけて







# 署訓

信賴せられ

愛せられ

協力せられる

消防に



# 50周年を祝して

三木市長 藪本吉秀



三木市に自治体消防が発足し、本年で50年という大きな節目の年を迎えました。今日まで本市の消防行政の発展のためにご尽力を賜りました関係各位に衷心より感謝を申し上げます。

このたび、消防本部発足50周年を記念し、先人の築きあげてこられた足跡をまとめた記念誌を発行しましたので、ご覧いただきたいと存じます。

さて、三木市消防本部・消防署は、昭和40年4月に消防車2台と職員21名をもって発足しました。

高度経済成長期を迎え、大規模な宅地開発によって人口が急増するとともに、工場産業の発展と大規模工場の進出など、激変する社会情勢の中で、小規模ながらも消防職員の強い使命感や努力の積み重ねによって消防体制の基礎を築き、半世紀を経て1本部・1署2分署、職員91名を有する消防本部に発展してまいりました。

近年、救急需要の増加に加え、火災や事故、自然災害の様相も複雑多様化し、市民の皆様の消防に対する期待はますます高まっています。

中でも、東南海地震や山崎断層地震の発生が危惧されるほか、台風や局地的な豪雨などによって災害が発生しているため、消防本部と地域の防災を担ってこられた消防団との連携を密にするとともに、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの教訓を活かし、日頃からしっかりと備えておかなければなりません。

本市では、住んで良かった、住み続けたいと思えるまちづくりを進めています。その重要な要素として、市民の皆様の誰もが安全で安心して暮らせるまちを構築すべく、防災力のさらなる充実・強化に全力を傾注してまいります。

結びに、消防本部発足50周年を契機として、防災に携わる方々をはじめ、市民の皆様が「ふるさと三木」の防災に対する理解を一層深めていただくことをご祈念申し上げます、ごあいさついたします。

# 三木市消防本部 発足50周年を祝して

三木市議会議長 加 岳 井 茂



三木市消防本部発足50周年を心よりお喜び申し上げます。

このたび、発足以来今日までの記録をまとめられた記念誌が発行されますことは、誠に意義深く、編集にご尽力を賜りました皆様に心から敬意を表します。

三木市の消防行政は、1本部1署5課2分署で構成されており、火災における消火活動や救急出動のみならず、台風、豪雨、地震などの自然災害における救助や防災活動、さらには事故災害における救助・救出など、市民の生命、身体及び財産を守り、被害を最小限にとどめるため、昼夜を問わず任務に精励されております。

安全で安心して暮らせる三木をめざし、日頃より基礎的訓練はもとより、高度技術の習得に努められ、市民生活に大きな安心感をもたらされておりますことに、深く感謝を申し上げる次第です。

近年、社会情勢の変化に伴い、火災や事故などの災害事象が複雑多様化したことや、大規模地震等の自然災害の発生などにより、市民の備えに対する関心や消防に寄せる期待は大きな高まりを見せ、消防の果たす役割はますます重要なものとなってきております。

防火・防災に対する不断の備えと、一人ひとりが自ら考え、自助・共助による防災のさらなる強化が求められる中、皆様方には市民の防災意識向上に向け、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

市議会といたしましても、消防力の充実強化を図り、安全・安心で、災害に強いまちづくりに全力を注いでまいり所存でございます。

結びに、昭和40年の発足以来、市民の安全を守るため、熱意をもって消防活動にご尽力いただいた方々に対し、心より深く感謝申し上げますとともに、発足50周年を契機に、三木市消防本部の更なるご発展と、消防職員の皆様の一層のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、発刊に寄せる言葉とさせていただきます。

# 50周年を迎えて

三木市消防長 森本英樹



三木市消防本部が昭和40年4月に発足して以来50周年という記念すべき節目の年を迎えました。

当時、1本部1消防署、職員21名、消防車2台で発足、50年の歳月を経て、消防体制は1本部1消防署2分署となり、職員数91名、消防車等23台、救急車4台を有する消防本部に成長いたしました。

近年、消防を取りまく環境は、救急需要の大幅な増大や局地的集中豪雨による災害が発生するなど、社会情勢の変化や異常気象に伴い災害事象は大きく変化し、これまで以上に環境は厳しく、今後ますます消防に対するニーズが高まっているものと強く認識しているところです。

また、平成7年に兵庫県南部地域に甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災から20年が経ちました。この大震災が残した数々の記憶と教訓を活かし、近い将来、発生が危惧されている東南海地震、山崎断層地震に対して、しっかりとした備えをしておかなければなりません。

このような情勢の中で、三木市では消防団と消防本部がより緊密な連携と協調を図りながら、7万9千人の市民に信頼され、親しまれる消防を目指すとともに、日々変化し続ける社会情勢に対応すべく積極的に消防行政を展開することに、決意を新たにす所存であります。

ここに50年にわたる本消防本部の歩んだ足跡を振り返り、先輩諸兄が築き上げてこられた歴史を誇りとし、今後のさらなる発展を誓い、この記念誌を発刊いたしました。

本書が、今後の三木市消防行政をご理解いただくうえで皆様にお役立ていただければ幸いです。

結びに、災害から住民を守ることに徹してこられた消防関係各位、先輩諸兄に心から深く敬意を表するとともに、地域住民の皆様からいただいたご支援あつてのことと深く感謝申し上げます、今後とも皆様方から変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

# 50周年を迎えて

三木市消防団長 中西 君一



三木市消防本部が発足50周年を迎えられ、先人の消防関係者に心より敬意と感謝を表しますとともに、これを記念しまして「50周年記念誌」を発刊されますことに、心よりお祝い申し上げます。

さて、三木市消防団の歴史については、昭和29年7月の町村合併により三木市が誕生した時、各町村長が所管する消防団5団が統合され三木市連合消防団が発足しました。その後、昭和38年10月に三木市連合消防団を発展的に解消し「三木市消防団」が発足することとなりました。昭和40年4月に発足しました三木市消防本部とは、常に強い協力体制を築きながら、市民の生命、身体、財産を守るため日夜活動を続けてきました。現在の三木市消防団は、38分団103班で組織され、団員数は1,333名を数えます。9隊ある機動隊の内、2隊に救助資機材搭載型車両を配備し、これらを中心として災害対応にあたっています。

今年は、阪神・淡路大震災から20年という節目の年を迎えることとなりました。当地域には山崎断層帯の脅威が潜んでおり、いつ大地震が発生するかわからない状況であります。あらためて日頃よりの備えがいかに重要であることをしっかりと認識しなければなりません。そのような中、消防団には、これら大災害に即時対応できる活動力が求められています。大災害では多数の負傷者発生が予想され、その時は、自主防災組織と協力し地域住民の避難誘導・救出救護活動を的確に実施する必要がありますが、消防団は必ずや防災リーダーとしての役割を果たすものと確信しております。三木市消防団は、これからも常備消防と確固たる信頼関係を保ち、さらに連携を強固なものとして地域住民の安全を守っていく所存でありますので、皆様におかれましては、より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます、三木市消防本部発足50周年のご挨拶とさせていただきます。

# 消防本部半世紀を振り返って

三木防火協会長 坂井幸嗣



三木市消防本部発足50周年、誠におめでとうございます。

消防本部が三木市に発足したのは意外に新しく、昭和40年のことです。

それまでの間は、自主防火組織である消防団の活躍により地域の安全が守られてきました。人口の増大や通勤の広域化、さらには新しい産業の発展に伴い、高い専門性と装備を持った常備消防組織の必要性が高まったことにより、21名の職員と2台のポンプ車からなる消防本部が50年前に誕生しました。

一方、三木防火協会は一足早く昭和37年に発足し、企業の自主防災を主として消防本部とともに歩んでまいりました。さらに、伝統の消防団も引き続き地域に根を下ろし、市民の安全に大きく貢献しています。

三木市ではこれらの組織が一体となり、互いに補いあいながら災害の拡大防止につとめている中で、三木市消防本部は扇の要としても大活躍しています。

昔は災害が起きてからの対応でしたが、近年では災害をいかに未然防止するか、あるいは減災に取り組むことができるかが重要となっています。そのような中、様々な訓練や防火思想の啓発活動、必要な資材の備蓄等を実施されています。さらに、広域的な活動にも取り組み、先の東日本大震災の際の応援出動は記憶に新しいところです。

さて、これからの50年を展望してみますと、三木市における高齢化や人口減少は待ったなしで、広域化あるいはロボットやIT技術を活用することによって、スリムな組織への転換が必要となっています。

また、新たなウイルスによるパンデミックが隣国において現実に発生している現状を踏まえ、防火だけでなく救急救命における専門性もさらに高める事が求められています。

三木市消防本部がこれまでに培ってきた力をもとに、これらの課題に立ち向かい、100周年に向けての新たな一步を踏み出されることを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



ごあいさつ

三 木 市 長 藪 本 吉 秀  
三木市議会議長 加 岳 井 茂  
三 木 市 消 防 長 森 本 英 樹  
三木市消防団長 中 西 君 一  
三木防火協会長 坂 井 幸 嗣

第 1 章	三木市の概要	12P
第 2 章	三木市民の安心・安全を守るために	14P
第 3 章	消防業務	28P
第 4 章	過去の火災	38P
第 5 章	消防団の取組み	42P
第 6 章	消防協力団体の取組み	48P
第 7 章	三木消防の沿革	52P
第 8 章	資料	64P

第1章

三木市の概要



**50th Anniversary**

## 三木市の概要



平成27年4月1日現在	
人口	79,479人
世帯数	32,658
面積	176.51Km <sup>2</sup>

三木市は兵庫県南東部、東経135度の日本標準時子午線上に位置し、播磨平野にそよぐ風の中、町の中央部を東西に加古川の支流である美嚮川がゆったりと流れています。

わが町三木の歴史は古く、播磨風土記には、億計(おけ)、弘計(をけ)2皇子の古代ロマンの物語が記されています。地名の由来は、その昔神功皇后が三木で休まれた時、土地の者が壺に入れた酒を献上したことから、御酒(みき)と呼んだのが始まりで、御酒が三木に転じたといわれています。

三木市は最高級の酒米として人気の高い「山田錦」の主産地であり、生産量、品質ともに日本一を誇っています。春はいちご狩り、夏はぶどう狩りが楽しめ、秋には豊年を祝う秋祭りが盛大に行われ、布団屋台が町に繰り出します。中でも大宮八幡宮でみられる21度の急傾斜85段の石段を、約2トンもの屋台を豪壮に担ぎ上げる迫力はまさに圧巻で、三木市無形民俗文化財に指定されています。

産業では、羽柴秀吉の時代から刃物、大工道具などの「金物の町」として栄えてきました。毎年11月には「金物まつり」が開催され、職人やメーカー自慢の品が並ぶ物産展のみならず多彩な催しが開催され、期間中は約14万人の来場者で賑わいます。

一方、市域内を中国及び山陽自動車道が通過するなど、全国的にも交通の要衝として注目され、数多くのゴルフ場が立地するほか、「三木ホースランドパーク」「山田錦の館」「吉川温泉よかたん」など、観光資源も多彩なものがあります。

また、優れた交通立地を生かし、「県立三木総合防災公園」や「ひょうご情報公園都市」の建設が積極的に進められ、将来が期待されるところです。



市内中心部

第 2 章

三木市民の安心・安全を守るために



**50th Anniversary**



## 三木市消防本部・三木市消防署

### 消防本部配置車両

化学消防ポンプ自動車	1台	資材搬送車	2台
消防ポンプ自動車	1台	防火広報車	1台
はしご付消防自動車(30m級)	1台	水槽車	1台
指令車	1台	指導車	1台
水槽付消防ポンプ自動車	1台	査察車	1台
指揮車	1台	広報車	1台
救助工作車	1台	公用車	1台
高規格救急自動車	2台	連絡車	1台



## 三木市消防署・広野分署

### 広野分署配置車両

消防ポンプ自動車	1台
水槽付消防ポンプ自動車	1台
高規格救急自動車	1台
資材搬送車	1台



## 三木市消防署・吉川分署

### 吉川分署配置車両

消防ポンプ自動車	1台
水槽付消防ポンプ自動車	1台
高規格救急自動車	1台
資材搬送車	1台
連絡車	1台





## 三木市消防本部 三木市消防署

所在地	三木市福井 1933 番 15
開署日	平成 20 年 4 月 12 日
構造	鉄筋コンクリート造地上 2 階建
敷地面積	10,390 m <sup>2</sup>
建築面積	2,175 m <sup>2</sup>
延べ床面積	3,5762 m <sup>2</sup>
(内訳)庁舎等	2,787 m <sup>2</sup>
訓練棟	294 m <sup>2</sup>
倉庫・車庫棟	495 m <sup>2</sup>
電話番号	0794-82-0119



消防8 (救助工作車)



消防30 (水槽車)



消防1 (化学車)



消防3 (ポンプ車)



消防4 (はしご車)



消防5 (指令車)



消防6 (水槽付ポンプ車)



消防7 (指揮車)



消防11 (高規格救急車)



消防23 (防火広報車)



消防21 (資材搬送車)



消防80 (資材搬送車)



## 三木市消防署 広野分署

所在地 三木市志染町広野 5 丁目 1

開署日 昭和 52 年 3 月 7 日

構造 鉄筋コンクリート造地上 2 階建

面積 1828.145 m<sup>2</sup>

建築面積 402.705 m<sup>2</sup>

延べ床面積 559.140 m<sup>2</sup>

電話番号 0794-85-0119



消防60(高規格救急車)



消防52(ポンプ車)



消防53(水槽付ポンプ車)



消防20(資材搬送車)



## 三木市消防署 吉川分署

所在地 三木市吉川町大畑 480 番地

開署日 昭和 58 年 4 月 1 日

構造 鉄筋コンクリート造平屋建

面積 1446.230 m<sup>2</sup>

建築面積 419.340 m<sup>2</sup>

延べ床面積 419.340 m<sup>2</sup>

電話番号 0794-73-0119



消防90(高規格救急車)



消防81(ポンプ車)



消防82(水槽付ポンプ車)



消防22(資材搬送車)

# 119番通報から災害活動終了まで。



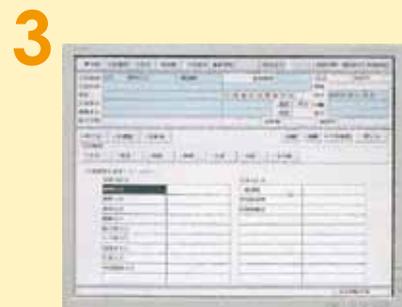
## 119番通報

火災・救急・救助などの119番通報。



## 通報受付

119番通報受付と同時に、指令台の災害入力画面が自動起動します。



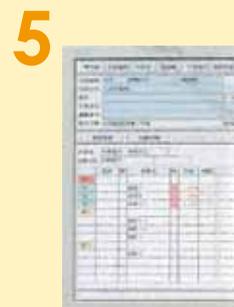
## 災害種別の決定

通報内容から火災、救急、救助など災害種別を決定します。



## 災害地点の決定

通報された住所や付近の目標物から地図を瞬時に画面表示し、災害地点を決定します。



## 出動隊の

災害種別に応じた選別し、出動隊を

# Miki City Fire Department



9



## 活動終了

コンピュータに保存された通報受付から活動終了までの情報をもとに各種報告書を作成します。報告書は統計資料などに活用されます。

8



## 災害現場

各種支援情報をもとに的確な消火や救急、救助活動を実施します。

7



## 出動

出動隊は、車両運用端末装置の指令情報をもとに、最短時間で現場に急行します。

6



## 出動指令

指令内容がコンピュータ音声や署所端末により自動的に出動隊に伝えられます。

## 編成

部隊を自動的に編成します。

# 高機能消防指令センターに新たに導入された消防 「三木市民の安全で安心な暮らしを24時間体制で

## ＜出動までの時間短縮＞

最新の通信技術とコンピュータを駆使し、119番通報の受信と同時に通報場所付近の地図が表示され、災害地点を特定でき、音声合成装置により出動指令までの時間が短縮されます。

## ＜車両の動態管理＞

GPS（現在位置を地図上に表示するシステム）付車両運用端末装置により各車両の動態を把握し、災害地点に近い車両を出動させることができます。

## ＜出動隊との情報共有＞

出動車両にも災害周辺地図や消防水利・病院情報等防災活動を支援する各種情報が表示されます。また、出動隊からの情報も指令室に表示されます。これらにより、初動体制の迅速化及び的確な対応が可能になり、被害の軽減・救命率の向上が期待されます。

## ＜主な機器＞

1. 指令台（自動出動指令装置・地図等検索装置）
2. 携帯・IP 電話位置情報通報システム
3. 音声合成装置
4. 指令伝送送信装置
5. 署所端末装置
6. 指令伝送出力装置
7. 順次指令装置
8. 災害状況自動案内装置
9. 無線統制台
10. 出動車両運用管理装置
11. 多目的表示盤



# 緊急通信指令システムは 守ります。」

Miki City Fire Department



## A E D

突然の心肺停止などの現場において、A E Dの使用は医師や救急救命士に限られていましたが、2004年7月から一般市民の方でもA E Dを使用した救命処置ができるようになっていきます。

三木市でも学校・公共施設・市内コンビニ店・企業など200か所以上の場所に設置されています。



## A E D取扱い訓練

心室細動（心臓のけいれん）を起こした場合、唯一の治療方法が電気ショックを与え、心臓のリズムを正常に戻すことです。心肺停止時には処置が1分遅れるごとに10%ずつ救命率が低下するといわれていることから、できるだけ早く電気ショックを行うことが重要です。日頃から救急法講習会等でA E Dの取扱いを含む心肺蘇生法の普及啓発に努めています。



## 三木市AED設置場所一覧

総数214箇所

(平成26年3月31日現在)

## 【三木地区】設置場所67

三木市役所 みつきいホール  
 三木市役所 各階(5台)  
 三木幼稚園  
 一粒園保育所  
 三木市立図書館  
 堀光美術館  
 金物資料館  
 上の丸保育所  
 勤労青少年ホーム  
 三木市総合保健福祉センター  
 服部病院  
 三木小学校  
 イオン三木店  
 エンゼル保育園  
 大村病院  
 山陽道三木サービスエリア(上り線)  
 三木市清掃センター  
 JA兵庫みらい 久留美支店  
 コミュニティスポーツセンター  
 デイサービスセンター三木北  
 三木高校(3台)  
 神和保育園  
 山陽道三木サービスエリア(下り線)  
 デイサービスセンター三木東  
 マスターズゴルフ倶楽部  
 三木市教育委員会  
 兵庫県加古川流域土地改良事務所  
 えびす保育園  
 三樹幼稚園  
 三樹小学校  
 もり内科循環器科クリニック  
 市民活動センター  
 高齢者生きがいセンター  
 三木中学校  
 三木市医師会(2台)  
 平田幼稚園  
 平田小学校  
 さつき園  
 サンライフ三木  
 教育センター  
 三木市消防署  
 三木市文化会館  
 勤労者体育センター  
 三木市水道部  
 岸本医院  
 みきやま斎場  
 三木東中学校  
 三木山総合運動公園 屋内プール  
 羽場保育園  
 デイサービスセンター三木南  
 三木山森林公園管理事務所  
 三木市シルバー人材センター  
 三木商工会議所  
 中央公民館  
 尼崎信用金庫 三木支店  
 三木プラザ  
 (株)岡田金属工業所  
 オトム 三木店

ガイア 三木店  
 三井住友銀行 三木支店  
 中兵庫信用金庫 三木支店  
 播州信用金庫 三木支店  
 旧玉置家住宅  
 原歯科医院  
 (株)イトー商品センター  
 みきやまリハビリテーション病院(3台)  
 三木警察署

## 【三木南地区】設置場所20

J A兵庫みらい 広野支店  
 ひろの保育園  
 広野小学校  
 広野幼稚園  
 消防署 広野分署  
 ときわ病院  
 通所リハビリテーション たんぼぼ  
 三木東高校  
 三木ホースランドパーク(6台)  
 三木市クリーンセンター  
 広野化学工業株式会社  
 (株)ミヤナガ 本社工場(3台)  
 道の駅みき  
 三木南交流センター  
 ガイア 三木南店  
 ローレルハイツ北神戸  
 (株)ウメダ パーラーパーク三木店  
 (株)ミットモ製作所  
 (株)ミットモ製作所(商品管理センター)  
 かじやの里メッセみき

## 【別所地区】設置場所14

神沢医院  
 古野電気株式会社 三木工場  
 (株)ミヤナガ 第2工場(4台)  
 別所幼稚園  
 別所保育所  
 別所町公民館  
 別所小学校  
 別所中学校  
 しゅうらく苑  
 近畿工業株式会社  
 みのり農業協同組合 三木営農経済センター  
 みのり農業協同組合 別所支店  
 極東開発工業株式会社  
 別所ふるさと交流館

## 【志染地区】設置場所23

志染町公民館  
 志染中学校  
 あけぼの保育園  
 デイサービスセンター志染  
 自由が丘東小学校  
 自由が丘東幼稚園  
 J A兵庫みらい 志染支店  
 兵庫県広域防災センター(3台)  
 志染小学校  
 東広野ゴルフ倶楽部

デイサービスセンター自由が丘  
 自由が丘中学校  
 総合隣保館  
 志染保育所  
 りんどうの里  
 東吉田集落センター  
 東和化学株式会社 三木工場  
 志染愛真ホーム  
 セントクリストファーズホーム  
 (財)兵庫県園芸公園協会  
 三木総合防災公園管理事務所(5台)  
 防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター  
 (株)ヤクルト本社 兵庫三木工場(6台)  
 サンスマイル三木

## 【細川地区】設置場所11

センチュリー三木ゴルフ倶楽部  
 グリーンピア三木  
 三木ゴルフ倶楽部(2台)  
 豊地小学校  
 星陽中学校  
 細川町公民館  
 オリムピックゴルフ倶楽部  
 まなびの郷みずほ  
 フォレスト三木ゴルフ倶楽部  
 J A兵庫みらい 豊地支店  
 コープこうべ土づくりセンター  
 みずほ協同農園

## 【口吉川地区】設置場所10

美奈木ゴルフ倶楽部  
 いずみ保育園  
 口吉川共同作業所 じゃがいもの家  
 口吉川町公民館  
 デイサービスセンター口吉川  
 口吉川小学校  
 三木よかわカントリークラブ  
 大栄環境株式会社  
 J A兵庫みらい 三木営農  
 生活センター口吉川事務所  
 オリエンタルゴルフ倶楽部

## 【自由が丘地区】設置場所8

自由が丘幼稚園  
 自由が丘小学校  
 自由が丘保育園  
 自由が丘公民館  
 ふじた内科医院  
 東自由が丘診療所  
 コープ志染  
 神戸電鉄 志染駅

## 【緑が丘地区】設置場所16

緑が丘町公民館  
 緑が丘小学校  
 緑が丘幼稚園  
 藤本クリニック  
 緑が丘スポーツ公園クラブハウス  
 デイサービスセンターひまわり

米山外科医院  
 緑が丘中学校  
 緑が丘東幼稚園  
 緑が丘東小学校  
 三井住友銀行 緑が丘支店  
 三木精愛園  
 りんでん学園 緑が丘幼稚園  
 清心保育園  
 J A兵庫みらい 三木みらい館  
 コープ三木緑が丘

## 【青山地区】設置場所10

関西国際大学(4台)  
 障害者総合支援センターはばたきの丘  
 青山公民館  
 三木北高校  
 コープこうべ協同学苑  
 三木特別支援学校  
 コ・ス・パ エス 三木  
 ほりい医院  
 岩本整形外科  
 イオン 三木青山店

## 【吉川地区】設置場所35

といや旅館  
 吉川中学校  
 吉川健康福祉センター  
 消防署 吉川分署  
 中吉川小学校  
 太平洋ゴルフ倶楽部(有馬コース)  
 吉川町公民館 貸潮分館  
 よかわ幼稚園  
 中兵庫信用金庫  
 吉川温泉(よかたん)  
 吉川体育館  
 吉川町公民館  
 三木市吉川支所  
 東吉川小学校  
 吉川総合公園(文化体育館)  
 (株)ミツカンフレシア 三木工場  
 上吉川小学校  
 太平洋ゴルフ倶楽部(六甲コース)  
 みなぎ台小学校  
 みなぎ台幼稚園  
 吉川保育所  
 関西クラシックゴルフ倶楽部  
 山田錦の館  
 吉川高校  
 花屋敷ゴルフ倶楽部 ひろのコース  
 関西ゴルフ倶楽部  
 吉川インターゴルフ倶楽部  
 ライオンズカントリー倶楽部  
 アークよかわゴルフ倶楽部  
 花屋敷ゴルフ倶楽部 よかわコース  
 吉川カントリー倶楽部  
 キングスロードゴルフクラブ  
 さざんかの郷  
 サテライト阪神事業所  
 熊見学園 神戸北キャンパス

## 訓練



救急救命処置①  
特定行為シミュレーション訓練



救急救命処置②  
特定行為シミュレーション訓練



事業所合同訓練



ビデオ喉頭鏡訓練



多数傷病者対応図上訓練

第 3 章

消防業務



**50th Anniversary**

## 予防業務

- 防火管理や火災予防相談、防火指導、防火協力団体との調整・連絡・指導
- 違反防火対象物や違反危険物施設の処理、防火対象物の査察に関する企画・立案等防火安全対策連絡協議会の運営
- 火災予防の企画・推進、防火対象物、消防用設備等の指導、検査や規制
- 危険物製造所等の許可・認可、危険物・高圧ガス・液化石油ガスの火災予防対策等の業務

## 危険物規制

ガソリンや灯油などの危険物を大量に貯蔵、または取扱う施設の安全は、消防法に定められた厳しい技術基準によって守られています。

このため、施設の設置や変更の設計段階から位置、構造、設備について書面審査を行い、中間検査、完成検査を通じて技術上の基準に適合しているかを確認します。

また、危険物施設で流出等の事故が発生した場合は、原因を究明し再発防止を図るため、関係者へ施設の保安管理に関する指導を行い、総合的な危険物施設の安全を確保しています。



## 街頭検査

年に1度、兵庫県警察本部及び北播磨地区各消防本部合同による移動タンク貯蔵所の街頭検査を実施しています。

この検査は、危険物の移送中または運搬中における災害の発生を未然に防止するため、街頭立入検査を実施し、より一層の安全確保の徹底を図ることを目的として実施しています。



## 査察指導

消防法に基づいて建築物や危険物施設などへの立入検査を実施します。

消火器やスプリンクラー、自動火災報知設備といった消防用設備等の設置・維持管理状態、避難経路の管理状況、さらに防火管理体制を厳しく見定め、法令違反があれば早期改善を促す指導を行います。

違反が是正されない場合には警告・命令などの違反処理を実施します。



## 訓練指導

火災等が発生した場合、消防隊が到着するまでの間に、事業所全体が総力をあげて「消防機関への的確な通報」、「初期消火活動」、「避難誘導」など従業員の方々がその建物内の消防用設備を最大限に活用し、「組織的な火災対応」をしなくてはなりません。

そのために、確実な119番通報や、消防隊が到着するまでの間、各テナントの自衛消防組織等が、迅速かつ的確に在館者等の人命保護と災害の拡大防止の措置がとれるよう習熟することを目的に実施しています。



## 防火広報

防火広報は、消防の実態や各種施策を正しく市民に伝え理解を得るとともに、市民の意見等を消防行政に反映するための業務です。

そのため、広報活動・ポスター等を配布しているほか、防火協力団体との調整・連絡・指導やインターネットのホームページにより防火防災に関する消防情報を提供しています。

また、各種イベントを通じた防火防災知識の普及などの広報を行っています。





## 警防業務

火災等を警戒及び鎮圧し、市民の生命、身体及び財産を火災から保護し、その被害を軽減することを目的として、市民の安全・安心のため、時代の変遷に即応する消防力の強化に努めています。



文化財防火デー



水防訓練



車両事故救助訓練

## B C対応（生物剤・化学剤）

テロを含むBC災害に対する消防活動に対応できる専門的な資機材、現場での適切な判断を行い、警戒区域、立入り禁止区域の指定とともに、負傷者の救出、救護、要救助者等の除染及び原因物質の回収を行います。防護服は、米局環境保護局基準でレベルAからレベルDの4段階に分れています。

### Aタイプ

呼吸器、皮膚、眼、粘膜等を最高レベルに守り、有害物質が不明で最も危険が高い場合の基本スタイルです。蒸気、ガス、液体細菌等のあらゆる形態の生物化学物質による汚染下で使用します。



### Bタイプ

レベルAと同程度であります。皮膚防護に関しては一段低いレベルとなります。原因物質の種類と汚染濃度が同定され、レベルAと同等の呼吸器防護が必要で、皮膚防護はさほど心配ない場合に使用します。

### Cタイプ

有害物質の性状、濃度等が確認されている場合に使用され、濾過式マスクと使い捨て化学防護服を着用し、応援救護所あるいは病院での初期治療、除染の際に毒物の種類に適したフィルター又は、吸収缶を使用して活動します。



### Dタイプ

防火衣です。

## 救助業務



救助業務とは、災害や事故により生命又は身体に危険が及んでいる要救助者を救助資機材等により救助・救命することを目的としています。

救助隊は、あらゆる危険性の中において、災害内容を迅速かつ冷静に判断し、救助資機材を十分に活用して人命救助を最優先し活動しています。

三木市では、現に発生している災害、事故等により自力で脱出又は避難できない、緊迫した状態から安全に救助・救命することを目的として、訓練等を行っています。



## 緊急消防援助隊活動状況



平成23年3月11日（金）14時46分、東日本大震災発生に伴い緊急消防援助隊兵庫県隊として宮城県に派遣されました。



緊急消防援助隊兵庫県隊三木消火小隊活動状況（被災地での検索活動）

## 救急業務



### 救急救命士・高規格救急自動車

平成3年に救急救命士法が制定されて以降、当市消防本部においても救急業務高度化に向け整備を進めてきました。平成6年5月に1名の救急救命士を養成したのを始めとし、高規格救急自動車の配備、そして医療機関及び各関係機関の協力を得ながら、平成8年10月1日から高度救急業務の運用が開始されました。平成27年4月現在、30名の救急救命士及び4台の高規格救急自動車を有しています。今後も救急救命士の常時2名乗車体制を推進し、市民の救命率向上を目標に救急業務を実施します。

#### 救急救命処置 一気管挿管一



#### 高規格救急自動車 一車内一



## 応急手当普及啓発

救急事案発生から救急車が現場到着するまでの「空白の時間」が、傷病者の生命を大きく左右するため、応急手当普及員講習会、上級救命講習及び普通救命講習などの講習会を実施し、応急手当の重要性を市民等に普及啓発しています。平成26年12月31日現在、上級救命講習及び普通救命講習の受講者数は述べ10,901人となり市民の14%の方が受講されています。

### 応急手当普及員講習会



### 普通救命講習



## 兵庫県ドクターヘリ運航開始

平成19年に「ドクターヘリ特別措置法」が制定以降、全国に多くのドクターヘリが配備されたことで、傷病者の救命率向上や後遺症軽減効果が実証されました。また、これを背景として、平成25年11月30日より播磨地域を中心とした兵庫県南部地域においても、基地病院を兵庫県加古川医療センター、そして準基地病院を製鉄記念広畑病院とした、「兵庫県ドクターヘリ運航」が開始されました。

### ドクターヘリ実働訓練



## みつきいみんなで防災

### 防災フェスティバル

昭和56年に市民と消防のつどい「第1回自主防災実技大会」として開催され、平成26年度で第34回目を迎えました。

「火災のない明るいまちづくり運動」の一環として企業及び市民一人ひとりの防火防災に対する正しい知識の習得と、防災技術の向上を図ることにより自主防災体制を確立し、三木市の災害の絶滅を期することを目的として実施しています。



大声コンテスト



レスキュー体験コーナー



水消火器コーナー



地震体験コーナー



119通報体験コーナー

第4章

過去の火災



**50th Anniversary**

## 過去の火災



### 学校火災

昭和53年1月9日 17時55分ごろ発生

小学校から出火した建物火災は、特別教室棟（木造瓦葺2階建延べ面積617㎡）が全焼、  
傷者1名が発生し、19時24分に鎮火となった。



### 酒造会社火災

昭和54年4月18日 14時35分ごろ発生

芝町で出火した建物火災は、酒蔵1棟（延べ面積1249㎡）を全焼、麹室を部分焼（60㎡）し、  
16時35分に鎮火となった。



### タンクローリー火災

平成5年11月15日 14時27分ごろ発生

中国自動車道上り41KPで発生した火災は、車両3台の事故により、タンクローリーに積載していた危険物（ガソリン等20,000L）から出火・延焼拡大し、16時51分鎮火となった。



### 廃車車両火災

平成10年9月6日 1時10分ごろ発生

別所町で発生した火災は、廃車車両250台、解体品及び隣接するプレハブ等を焼損し、15時00分に鎮火となった。



### 建物火災

平成23年8月15日 1時45分ごろ発生

志染町で発生した火災は、木造2階建て一部平屋瓦葺住宅延べ141㎡を全焼し、3時34分に鎮火したが、死傷者2名が発生した。



### 林野火災

平成26年5月8日 13時05分ごろ発生

大村で発生した火災は、自己が所有する山林において、焼却炉で笹束を焼却中に強風にあおられ2.5haを延焼。隣接する消防本部、消防団、防災ヘリ等、総勢200人で消火にあたり、18時35分に鎮火となった。

第5章

消防団の取組み



**50th Anniversary**

## 消防団

消防団の歴史は古く、江戸時代の火消組に始まっています。

昭和22年に消防団令が制定され各町村長が所轄する消防団が誕生し、昭和38年から三木市消防団として活動しています。

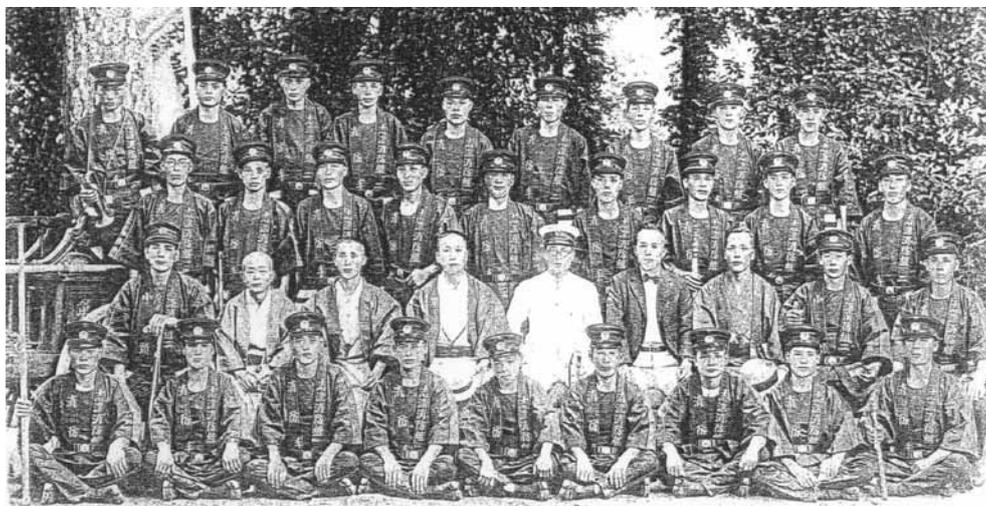
消防団は、「自分たちのまちは自分たちで守る」との強い思いで、消防署のなかった時代から市民の守り人として地域に密着した防災活動を行っている組織です。

また、平成7年の阪神・淡路大震災以降、各地で多発している地震や集中豪雨など、大規模な自然災害において、消防団の組織力と機動力が大きく評価されています。

現在三木市では、1333名の団員があらゆる災害に備えて日夜訓練に励み、地域防災のリーダーとして地域に密着した活動を続け、災害のない明るいまちづくりに尽力しています。

平成24年4月、三木市初、消防団の活性化の一環として女性消防団3名を任用しました。消防大会や各種イベント等に参加し、防火・防災の啓発活動に活躍しています。

昭和38年10月	三木市消防団発足
昭和43年 3月	細川機動隊が発足
昭和46年 8月	志染機動隊が発足
昭和47年10月	別所機動隊が発足
昭和50年 3月	三木市消防団が消防庁長官表彰を受章
昭和60年11月	三木市消防団員定数1113名と定める
昭和61年 1月	第11回北播磨地区消防操法大会優勝（吉川町消防団）
平成 2年 7月	第13回北播磨地区消防操法大会優勝（三木市消防団）
平成17年10月	美囊郡吉川町が三木市と合併 三木市消防団が38分団103班となる
平成21年 4月	三木市消防団員定数1360名と定める
平成22年 9月	総務省消防庁から貸与を受けた消防団救助資機材搭載車両を志染機動隊に配備
平成24年 4月	吉川町機動隊が発足 三木市初の女性消防団員が誕生（3名）
平成25年 3月	日本消防協会から消防団多機能型車両が寄贈され、 吉川機動隊に配備
平成26年 7月	第25回北播磨地区消防操法大会優勝（別所第3分団花尻班）



昭和初期の消防団

## 消防団の活動（消防大会）

---



一斉放水(昭和43年・消防大会)



一斉放水(平成4年・消防大会)



部隊行進(平成25年・消防大会)



一斉放水(平成27年・消防大会)



美囊川一斉放水

## 消防団の活動（訓練風景）

---



倒壊家屋救出救護訓練



機関員小型動力ポンプ取扱い訓練



救助資機材取扱い訓練



水防訓練



救急法講習会



ポンプ操法大会

## 救助資機材搭載型車両の導入



平成22年9月志染機動隊に配備



平成25年3月吉川機動隊に配備

平成22年9月、総務省消防庁から救助資機材搭載型車両の無償貸付を受け、志染機動隊に配備しました。  
平成25年3月、日本消防協会から多機能型車両の寄贈を受け、吉川機動隊に配備しました。

## 女性消防団員の活動

平成24年4月、消防団活性化の一環として、三木市初の女性消防団員3名を任用しました。  
消防大会や各種イベント等に参加し防火・防災の啓発活動に参加しています。



救急法講習会



放水訓練



防火啓発活動



イベントの進行

## 消防ミュージアム



119番通報体験コーナー



警鐘台には今も多くの半鐘が取り付けられています



火事現場では火の粉から身体を守ってくれました



腕用ポンプ放水体験



纏(まとい)  
消火活動の目印などとして使用



大正11年手引き腕用ポンプ

第6章

消防協力団体の取組み



**50th Anniversary**

## 三木防火協会の沿革

三木防火協会は、昭和37年に兵庫県危険物安全協会が設立されたことに伴い、その組織構成団体のひとつとして「兵庫県危険物安全協会三木支部」が創立されました。

当初は、危険物施設所有の14事業所が会員となり、危険物の保安に関する意識の高揚と啓発、並びに自主保安体制の整備を図ることを目的として、活動を始めました。

この後、昭和40年4月1日の三木市消防本部発足に伴い事務局を消防本部に置き、その活動基盤・内容の充実化が図られました。

また、産業経済の目ざましい発展と生活様式の向上に伴い、災害の様相も複雑多様化し、火災予防の普及啓発が一層重要性を増したことから組織の強化が望まれ、昭和50年5月に兵庫県危険物安全協会三木支部を発展的解消し、危険物施設事業所及び一般事業所を対象にした「三木市防火協会」に改組、会員数も170事業所と大幅に増加しました。その事業内容も多岐にわたり、協会報を始めとする広報活動、協会員・婦人防火クラブ員・消防団員・市民等が集う、みっきいみんなで防災「防災フェスティバル」の開催及び各種研究会等を開催し、防火防災思想の普及啓発に努めました。

さらに、昭和58年6月には吉川町消防事務の委託に伴い、東播磨危険物安全協会と合併して「三木防火協会」に名称を変更、その規模及び活動内容もますます充実拡大しながら現在に至っています。

## 歴代支部長・会長

●兵庫県危険物安全協会三木支部（S37.7.16～S50.5.11）

初代支部長



黒田 邦男  
S37.7.16～S41.3.31

二代目支部長



光川 正一  
S41.4.1～S45.5.18

三代目支部長



三宅 通雄  
S45.5.19～S50.5.11

●三木市防火協会（S50.5.12～S58.6.1）

初代会長



神沢 多美男  
S50.5.12～S54.6.24

二代目会長



宮崎 三郎  
S54.6.25～H13.5.21

三代目会長



東 正敏  
H13.5.22～H17.5.23

四代目会長



前田 君司  
H17.5.24～H21.5.28

五代目会長



坂井 幸嗣  
H21.5.29～

●三木防火協会（S58.6.2～）

昭和37年	7月16日	兵庫県危険物安全協会三木支部設立 初代支部長に黒田邦男氏を選任
昭和40年	4月1日	三木市消防本部(署)発足に伴い、事務局を消防本部内に置く
昭和41年	4月1日	兵庫県危険物安全協会三木支部定例総会 第二代三木支部長に光川正一氏を選任
昭和42年	7月3日	会報創刊号発刊
昭和45年	5月19日	兵庫県危険物安全協会三木支部定例総会 第三代三木支部長に三宅通雄氏を選任
	12月2日	第1回三木市危険物安全大会
昭和46年	11月25日	油火災大規模消火実験
昭和47年	9月1日	高圧ガス貯蔵取扱関係者研修会
昭和48年	9月13日	プロパンガス安全教室
昭和50年	5月12日	「三木市防火協会」へ名称変更 初代会長に神沢多美男氏を選任
	11月20日	会報家庭版創刊号発刊
	12月2日	第1回三木市防火安全大会
昭和52年	12月1日	第1回一日女性消防士研修会
昭和54年	6月25日	三木市防火協会定例総会 第二代会長に宮崎三郎氏を選任
昭和56年	11月7日	市民と消防のつどい「第1回自主防災実技大会」
昭和57年	11月4日	吉川町事務委託調印式
昭和58年	6月2日	三木市防火協会定例総会 東播磨危険物安全協会と合併、「三木防火協会」に名称変更
昭和62年	1月29日	防災講演会
平成1年	11月10日	親と子の防火のつどい「幼年少年婦人防火安全大会」
平成4年	6月8日	(財)全国危険物安全協会表彰式(東京都) 三木防火協会が(財)全国危険物安全協会理事長表彰を受章
	9月22日	三木防火協会創立30周年記念式典 市民と消防のつどい「第12回防災フェスティバル」 三木防火協会が三木市長から感謝状を受ける。
平成7年	1月17日	阪神・淡路大震災 平成7年1月17日5時46分、淡路島北部沖の明石海峡を震源としてマグニチュード7.2を記録する阪神淡路大震災が発生。 死者6425名、負傷者40,000名以上にのぼる被害をもたらした。
平成13年	5月22日	三木防火協会定例総会 第三代会長に東正敏氏を選任
平成17年	5月24日	三木防火協会定例総会 第四代会長に前田君司氏を選任
	10月17日	平成の大合併により「三木市」と「美囊郡吉川町」合併
平成20年	5月28日	三木防火協会定例総会 新消防庁舎竣工に伴い「纏」贈呈
平成21年	5月29日	三木防火協会定例総会 第五代会長に坂井幸嗣氏を選任
平成22年	6月7日	全国危険物安全大会(東京都) 消防庁長官表彰受章 広野化学工業(株)
平成23年	3月11日	東日本大震災 平成23年3月11日14時46分、宮城県沖の太平洋で観測史上最大規模のマグニチュード9.0を記録する地震が発生。 大津波により東日本に壊滅的被害をもたらした。
平成24年	11月17日	三木防火協会創立50周年記念式典開催及び記念誌発刊



平成20年5月28日 三木防火協会定例総会 新消防庁舎竣工に伴い「纏」贈呈

## 三木市 幼年・少年・婦人防火クラブ

### I 幼年消防クラブ

このクラブは、幼児期に、火に対する正しい「しつけ」を身につけ、人命や財産を大切にするなど、社会人としての素地を養成することを目的としており、火災の恐ろしさを知ることにより、子供の火遊びを減少させ、将来社会に貢献できる大人になるよう結成されました。

No.	クラブ名	結成年月日	活動状況
1	別所保育所幼年消防クラブ	S58.11.17	避難訓練・地震教室・救急教室
2	志染保育所幼年消防クラブ	S58.11.17	避難訓練・地震教室・救急教室
3	エンゼル保育園幼年消防クラブ	S58.11.17	避難訓練・地震教室・救急教室
4	ひろの保育園幼年消防クラブ	S58.11.17	避難訓練・地震教室・救急教室
5	あけぼの保育園幼年消防クラブ	S58.11.17	避難訓練・地震教室・救急教室
6	えびす保育園幼年消防クラブ	S59.6.5	避難訓練・地震教室・救急教室
7	上の丸保育所幼年消防クラブ	H20.9.1	避難訓練・地震教室・救急教室
8	吉川保育所幼年消防クラブ	H20.9.1	避難訓練・地震教室・救急教室

### II 少年消防クラブ

このクラブは、豊地小学校の4年生の児童で構成され、火災予防についての知識、技能を研修習得し、火災の社会におよぼす惨禍を深く理解させるとともに、将来有為な社会人となり、安全明朗な地域の形成を図り、また学校内外の安全、教育に進んで協力し、非常災害時には公共のために災害救助に挺身する民主社会人の育成を目的とし、昭和43年3月2日に結成されました。

No.	クラブ名	結成年月日	活動状況
1	豊地少年消防クラブ	S43.3.2	夏休み防災研修

### III 婦人防火クラブ

このクラブは、常に防火防災について研究を重ね、地域住民の核となって住民一人ひとりの防火意識を高めると共に、家庭の火災予防を推進し、住民生活の安全性をはかることを目的とし結成されました。

No.	クラブ名	結成年月日	脱退年月日	活動状況
1	上南婦人防火クラブ	S40.1.24	H21.3.31	三木市消防大会
2	細目婦人防火クラブ	S55.9.1	H21.3.31	親子教室・地震教室
3	自由が丘婦人防火クラブ	S60.12.1	—	防災研修・公民館文化祭消防展



第7章

三木消防の沿革



**50th Anniversary**

## 消防の沿革 1947(昭和22年)～1965(昭和40年)

- 昭和22年 消防団令が制定公布され、消防団が誕生。
- 昭和23年 消防組織法が施行(S 22.12.24公布)。消防事務が市町村に移管され、自治体消防制度が発足、各町村長が所管する消防団を設置。
- 昭和29年 旧美嚙郡のうち、三木町・別所村・細川村・口吉川村の1町3村の合併により三木市が誕生。(同年7月1日に三木市と志染村が合併)昭和29年7月消防組織は旧町村単位の5団を統合、三木市連合消防団を設置。  
三木市連合消防団長に魚住丑之助氏就任。  
消防ポンプ自動車(トヨタ)1台購入、連合消防団に配備。  
消防団常備部車両1台・人員8名を設置。
- 昭和30年 三木市役所内に常備部消防詰所を整備設置。
- 昭和33年 第2代連合消防団長に津村武雄氏就任。
- 昭和34年 第3代連合消防団長に山口静男氏就任。
- 昭和36年 消防ポンプ自動車1台購入、消防団常備部に配備。  
水槽付消防ポンプ自動車(トヨタ)1台購入、消防団常備部に配備。
- 昭和37年 三木市火災予防条例を制定。
- 昭和38年 三木市連合消防団を発展的解消し、三木市消防団が発足。  
初代消防団長に山口静男氏就任。  
消防ポンプ自動車(ニッサン)1台購入、消防団常備部に配備。
- 昭和39年 日本消防協会会長表彰により表彰旗を授与。
- 昭和40年 三木市消防本部、消防署を設置、常備消防が発足。水槽付消防ポンプ自動車1台  
普通消防ポンプ自動車1台、消防職員21名で業務を開始。  
消防団常備部は解散する。消防長事務取扱に衣巻顕明氏(市長)、消防本部次長  
兼消防署長に今井真治氏就任。三木市消防団員定数1,566名と定める。  
第2代消防団長に大林嘉三氏就任。  
三木市消防団・県知事表彰受章、楯を授与。



昭和20年頃の三木市  
(航空写真)



消防団によるポンプ操法



旧三木市役所と消防車  
(昭和40年頃)



昭和40年頃の事務所

## 1966(昭和41年)～1972(昭和47年)

昭和41年 消防職員4名採用(総数25名)三木市消防団員定数1,500名と定める。  
9月13日午前2時10分覚知。三木市立豊地小学校から出火し、2階建校舎延べ面積1,539㎡が全焼。原因不明。

秋の火災予防運動  
(昭和42年)

昭和42年 第2代消防長に金鹿秀夫氏(助役)就任。  
日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。  
加古川市、小野市と「消防相互応援協定」を締結。  
三木市消防団員定数1,450名と定める。  
第3代消防長に大原義治氏(市長)就任。

昭和43年 細川機動隊が発足。  
消防本部及び消防団・消防庁長官表彰を受賞、竿頭綬を授与。  
三木市消防団、組織・機構改革60分団を29分団に統合整備。  
三木市消防団員定数1,400名と定める。消防職員3名採用(総数28名)  
第4代消防長に今井真治氏就任。  
神戸市と「消防相互応援協定」を締結。  
中短波無線電話機移動用1台購入、消防署に設置。



秋の火災予防運動パレード

昭和44年 消防職員3名採用(総数29名)  
三木市消防団員定数1,380名と定める。

昭和45年 消防職員2名採用(総数30名)  
吉川町、東条町と「消防相互応援協定」を締結。  
三木市消防団員定数1,280名と定める。  
消防庁舎建設工着手(三木市本町2丁目9番1号)  
小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)1台を購入、口吉川地区消防団へ配備。  
口吉川機動隊が発足。消防救助隊発隊。(隊員15名)



車両整備の様子

昭和46年 消防職員2名採用(総数31名)  
消防本部庁舎が竣工、業務開始。(鉄筋コンクリート造・3階建)  
消防指令台を消防署に設置、運用開始。  
小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)1台を購入、志染地区消防団へ配備。  
志染機動隊が発足。  
組織・機構改革。消防署に機械係を新設。  
三木市消防団員定数1,200名と定める。



旧消防本部庁舎

昭和47年 第5代消防長に五百蔵利治氏就任。消防職員5名採用。(総数34名)  
別所機動隊が発足。三木市消防団員定数1,140名と定める。

1973 (昭和48年)～1980 (昭和55年)

- 昭和48年 屈折はしご付消防ポンプ自動車(三菱・A-1級)1台を購入、消防署に配備。  
消防職員5名採用(総数40名)
- 昭和49年 消防職員5名採用(総数45名)  
三木青年会議所から救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。  
三木市消防団・県知事表彰を受賞、表彰旗を授与される。
- 昭和50年 消防本部及び消防団・消防庁長官表彰を受賞、表彰旗を授与。  
消防職員4名採用(総数48名)
- 昭和51年 消防職員5名採用(総数53名)
- 昭和52年 三木市消防署広野分署庁舎が竣工。水槽付消防ポンプ自動車1台、普通ポンプ自動車1台、救急自動車1台、及び消防吏員15名で業務を開始。  
組織・機構改革。消防署に消防第1係及び消防第2係を新設。  
3月13日午後1時40分覚知。三木市志染町四合谷から出火し、強風にあおられ造成予定地であった高男寺周辺の山林30haを焼失、翌朝に鎮火。  
組織・機構改革。消防署に消防課を新設、消防本部総務課と2課制とした。  
第6代消防長に戸田良一氏就任。消防職員6名採用(総数58名)  
日本消防協会から救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。  
消防ポンプ自動車1台をロータリークラブから寄贈を受け、消防署に配備。
- 昭和53年 消防パトロール車1台を購入、消防本部に配備。  
消防職員4名採用(総数62名)  
日本損害保険協会から、消防ポンプ自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
- 昭和54年 組織・機構改革。総務課に企画係・庶務係・予防第1係及び予防第2係、消防課に警備第1係・警備第2係・機械第1係・機械第2係に組織改正。  
消防職員4名採用(総数64名)  
加東消防事務組合と「消防相互応援協定」を締結。
- 昭和55年 第7代消防長に北川真昭氏就任。消防職員6名採用(総数69名)
- 昭和56年 山之内製薬(株)から救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。  
組織・機構改革。消防本部総務課に企画係・庶務係・予防係・危険物係及び消防係、消防署に警備第1係・警備第2係・機械第1係・機械第2係・消防第1係・消防第2係・通信第1係・通信第2係・救急第1係及び救急第2係に組織改正した。消防職員4名採用(総数72名)  
第10回消防救助技術近畿地区指導会において、ロープブリッジ渡過の部で、藤本智副士長が優勝し全国大会に初出場。
- 昭和57年 第8代消防長に上野成生氏就任。消防職員3名採用(総数75名)  
美囊郡吉川町と三木市との間における「消防事務委託に関する協定書」に調印。  
三木ライオンズクラブから救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。



屈折はしご付消防ポンプ自動車  
(昭和48年)



三木市消防署 広野分署開設  
(昭和52年)



広野分署に配備の救急車  
(昭和52年)



ボーイスカウト消防署見学  
(昭和57年)

## 1981 (昭和56年)～1988 (昭和63年)

昭和58年

石対交付金事業により、現場指揮自動車1台を購入、消防本部に配備。  
 三木市消防署吉川分署を開設し、化学消防自動車1台、普通ポンプ自動車1台、  
 救急自動車1台及び消防吏員12名で業務を開始。  
 組織・機構改革。消防本部総務課に企画係・管理係・予防係及び危険物係を、消  
 防署消防課に警備第1係・警備第2係・消防第1係・消防第2係・機械係・通信  
 第1係・通信第2係・救急第1係及び救急第2係に組織改正。  
 消防職員6名採用(総数80名)  
 中国道のうち兵庫県の区域における消防相互応援に関する協定を締結。  
 第3代消防団長に小山伊一氏就任。

放水訓練  
(昭和58年頃)

昭和59年

日本自動車工業会から救急自動車1台寄贈を受け、広野分署に配備。  
 5月8日午後9時6分覚知。三木市別所町下石野屋外物品集積所から出火し、  
 古タイヤ約20,000本が焼失、翌朝に鎮火。

三木市消防署吉川分署開設  
(昭和58年4月1日)

昭和60年

第9代消防長に谷川齊氏就任。消防職員2名採用(総数80名)  
 三木市・小野市の両市境界上の消火栓新設等に関する覚書を締結。  
 三木市消防団員定数1,113名と定める。  
 三田市、稲美町と「消防相互応援協定」を締結。  
 加古川市と「消防相互応援協定」を一部改正、締結。

第三回 実戦操法競技大会  
(昭和60年10月8日)

昭和61年

消防本部の消防・救急指令台を更新配備。  
 資材搬送車1台を購入、吉川分署に配備。  
 消防指令車1台を購入、消防本部に配備。

昭和62年

消防本部無線基地局を更新設置。  
 消防本部の査察車1台を購入、更新配備。

昭和63年

「舞鶴自動車道における消防相互応援協定」を締結。  
 組織・機構改革。消防本部に予防課を新設、総務課と2課制とし、総務課に企画  
 係・管理係を、予防課に予防係・危険物係を置く組織改正。  
 消防職員2名採用(総数81名)  
 日本防火協会から三木市少年婦人防火委員会へ防火広報車「火の用心」号1  
 台の寄贈を受ける。  
 「中国道のうち兵庫県の区域における消防相互応援協定」を一部改正締結。  
 「兵庫県広域消防相互応援協定」を締結。

消防・救急指令台更新配備  
(昭和61年3月)

1990(平成2年)～1995(平成7年)

- 平成元年 親子の防火のつどい「幼年・少年・婦人防火安全大会」を開催。  
幼年・婦人防火クラブ員・消防関係者約560名が参加。  
パレードの後、文化会館において王子動物園の亀井一成氏を講師に招き、講演会を開催。  
資機材搬送車1台を購入。広野分署に更新配備。
- 平成2年 日本消防協会から三木市消防団に広報車1台寄贈を受け、団本部に配備。  
消防署に初めて救助工作車を配備。
- 平成3年 消防職員2名採用(総数81名)  
資機材搬送車1台を購入、消防署に更新配備。
- 平成4年 はしご付消防自動車(日野・30m級)1台を購入、広野分署に配備。  
消防職員2名採用(総数83名)
- 平成5年 神戸市救急救命士養成所に職員1名を派遣。養成研修を開始。  
11月15日午後2時32分消防本部覚知。中国自動車道上り41KP付近でタンクローリーが中央分離帯に衝突炎上、ガソリン・軽油等20,000Lが燃え、神戸市にヘリ等特別応援を要請、三木市・神戸市から13台が出場。
- 平成6年 消防職員3名採用(総数86名)  
組織・機構改革。消防署消防課に高度救急担当を新設。  
救急救命士国家試験に合格。救命士誕生。(神戸市救急救命士養成所1名)  
美囊郡吉川町と三木市との間における「消防事務委託に関する協定書」の一部改正に調印。
- 平成7年 1月17日午前5時46分震度7の阪神・淡路大震災が発生し、三木市内も全域にわたり被害を受けた。消防本部は、25日まで神戸市への応援を行う。



初めての救助工作車を配備  
(平成3年3月)



救助訓練  
(平成3年)



文化財防火デー訓練  
(平成4年)



阪神・淡路大震災が発生し、  
三木市内も全域にわたり被害を受ける  
(平成7年)

## 1996(平成8年)～1998(平成10年)

平成8年

小型動力ポンプ付水槽車(II型)1台を購入、消防署に更新配備。  
 消防ポンプ自動車(CD-I型)1台を購入、吉川分署に更新配備。  
 三木市消防団の消防ポンプ自動車(CD-I型)2台を購入、三木第4分団・三木第8分団に各々更新配備。  
 第10代消防長に大貫盛行氏就任。消防職員2名採用(総数86名)  
 組織・機構改革。消防署消防課に防災指導担当を新設。  
 「中国自動車道のうち兵庫県における消防相互応援協定の一部を改正する協定書」に調印。  
 兵庫県消防防災航空隊の発足、三木市から隊員として職員1名を派遣。  
 高規格救急車1台・救急救命士6名体制で三木市高度救急業務を開始。  
 消防組織法に基づく三木市消防本部消防職員委員会を設置。  
 三木市災害対応総合情報ネットワークシステムが整備完了、運用開始。  
 山陽自動車道の神戸ジャンクションから三木、小野インター間が開通、日本道路公団等と消防相互応援協定を締結、消防及び救急業務を開始。  
 三木第6分団消防器具庫竣工。(鉄筋ALC造、2階延べ81㎡)  
 東播磨内陸地域救急救命士運用連絡協議会が発足。

兵庫県消防防災航空隊が発隊  
隊員1名を派遣小型動力ポンプ付水槽車  
(平成8年)

平成9年

「山陽自動車道消防相互応援協定」及び「山陽自動車道消防相互応援協定に基づく覚書」を日本道路公団及び兵庫県と締結。  
 消防指令車1台を購入、消防本部に更新配備。(トヨタクラウン・2000cc)  
 消防職員2名採用(総数88名)  
 組織・機構改革。消防署広野分署に、救急担当を新設。  
 吉川分署配備の救急車に高度救急資器材を積載し、準高規格救急自動車に整備。  
 高規格救急自動車1台を購入、広野分署に更新配備。  
 (いすゞスーパーメディック)

文化財防災デー訓練  
(平成8年)

平成10年

高規格救急自動車1台・救急救命士4名体制で広野分署高度救急業務開始。  
 組織・機構改革。消防本部に「警備課」を新設、消防署消防課を「消防第1課」「消防第2課」に改正。  
 消防職員4名採用(総数90名)  
 代表消防本部を経由して携帯電話からの119番通報を受信開始。  
 山陽自動車道の西神線開通。「三木ジャンクション」から「神戸西インター」までの間、関係機関と応援協定を締結、消防及び救急業務を開始。  
 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。  
 山陽自動車道消防相互応援協定の一部を改正する協定を関係市町と締結。

吉川分署配備の準高規格救急自動車  
(平成9年)

1999(平成11年)～2002(平成14年)

平成11年

組織・機構改革。消防署吉川分署に救急担当を新設。  
3台目の高規格救急自動車1台を購入、吉川分署に更新配備。  
(トヨタグランビアハイメディック)  
救急救命士3名体制で吉川分署高度救急業務開始。  
新消防庁舎移転建設検討委員会・幹事会を消防本部内に設置。  
コンピューター西暦2000年問題対策委員会を設置、危機管理計画作成。



旧消防庁舎の様子

平成12年

新消防庁舎基本構想を策定。  
「ガス漏れ及び爆発事故等の防止対策に関する覚書」を大阪ガスと締結。  
消防ポンプ自動車(CD-1型)1台を購入、消防署に更新配備。  
(三菱シキヤター)  
広野分署梯子付消防自動車のオーバーホール完了。(日本機械工業K・K)消防ポンプ自動車(BD-1型)1台を購入、細川機動隊に更新配備。  
(トヨタランドクルーザー)  
神戸市救急救命士養成所へ三木市から事務職員1名を派遣。  
資材搬送車1台を購入、消防署に更新配備。(三菱シトラック)



トライやるウィーク  
(平成12年)

平成13年

別所町コミュニティ消防センター竣工。(鉄骨造2階延べ面積84㎡)  
査察車を購入、消防本部に更新配備。(三菱ミニキャブ)  
4台目の高規格救急車を購入、消防署に更新配備。(消防11号車を更新)  
資材搬送車1台を購入、吉川分署に更新配備。(三菱シトラック)

平成14年

小型動力ポンプ軽四輪積載車を、口吉川第4分団楮原班・三木第5分団加佐西班に配備。  
細川第6分団脇川班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。  
事務連絡車1台を購入、吉川分署に更新配備(三菱ミニキャブ)  
消防職員1名採用(総数90名)  
三木市消防団員定数改正。1,113名を1,006名と定める。  
組織・機構改革。予防課に「設備担当」消防課に「調査担当」を新設。  
石対交付事業により、小型動力ポンプ(C-1級)2台を購入、  
広野分署・吉川分署に配備。  
三木市消防本部(署)防災センター設計者選定委員会設置。  
北播磨救急連絡部会が発足  
(※東播磨内陸地域救急救命士運用連絡協議会が名称変更)



消防総合訓練  
(平成13年)



第22回防災フェスティバル

## 2003 (平成15年)～2005 (平成17年)

平成15年

新消防庁舎建設に伴う調整池工事完了。  
 新消防庁舎用地 (防災拠点施設整備事業用地) 取得。(21,439㎡)  
 新消防庁舎建設に伴う建築提案設計の実施及び作品の決定。  
 消防吏員服制準則一部改正に伴い、三木市消防吏員服制規則(別表2)を全面改正。  
 第1代消防長に岡本忠文氏就任。消防職員2名採用(総数90名)  
 小型動力ポンプ軽四輪積載車を整備。別所第3分団西這田北班・口吉川第2分団横班に配備。  
 第1回東播磨・北播磨・淡路地域メディカルコントロール協議会が発足。  
 平成15年度第1回東播磨・北播磨・淡路地域メディカルコントロール協議会・事後検証委員会の開催。

消防指揮車  
(三木消7)

平成16年

消防指揮車(三菱デリカ)1台を購入、消防署に更新配備。  
 新消防庁舎建設に伴う実施設計。  
 兵庫県立広域防災センター竣工式に伴い、消防本部から12名、車両4台が一斉放水訓練に参加、また、口吉川第2分団横班による小型ポンプ操法を披露。  
 兵庫県消防防災航空隊に、隊員として職員1名を派遣。  
 消防団にアポロキャップを採用し全団員に貸与。  
 7月18日未明に発生した福井県北部の豪雨災害に、18日から19日の2日間、緊急消防援助隊として、消防隊1隊(5名)・救急隊1隊(3名)を派遣した。  
 (東播ブロックから明石市・加古川市・高砂市・三木市消防本部を派遣)  
 緊急消防援助隊法制化以降、初の出動となった。  
 10月20日に発生した台風23号により豊岡市で豪雨災害が発生、兵庫県下広域応援隊として、21日から22日の2日間、救急隊1隊(3名)が出動した。  
 (東播ブロックから明石市・加古川市・加西市・加東行政・高砂市・三木市消防本部が出動)

初出式  
(平成16年)秋の火災予防運動  
(平成16年)

平成17年

小型動力ポンプ軽四輪積載車を整備。三木第5分団加佐東班・細川第1分団に配備。  
 消防職員2名採用(総数90名)  
 財団法人日本宝くじ協会から、防災整備事業助成として消火・通報訓練指導車の寄贈を受け、消防本部に配備。  
 「消防事務委託」を受託していた、美囊郡吉川町と合併。  
 携帯電話からの119番緊急通報が直接受信方式に変更。  
 高規格救急自動車(ニッサン エルグランドパラメディック)1台を購入、消防署に更新配備。



兵庫県消防防災航空隊と神戸市航空機動隊が共同運航を開始 隊員一名を派遣

2006(平成18年)～2008(平成20年)

平成18年

小型動力ポンプ軽四輪積載車を整備。別所第4分団下石野班・口吉川第2分団大島班に配備。  
 水槽付消防ポンプ自動車(水1-A)1台を購入、吉川分署に更新配備。  
 延田興業から高規格救急自動車(トヨタ グランビア ハイメディック)の寄贈を受け、広野分署に配備。  
 毎月10日を住宅用火災警報器推進デーと定め、住宅用火災警報器推進隊(平成23年5月まで)を発足。  
 第12代消防長に竹中誠一氏就任。消防職員3名採用(総数90名)  
 行幸啓に伴う現地警備を実施。  
 のじぎく兵庫国体のソフトテニス・サッカー・馬術競技会場及び、のじぎく兵庫大会障害者サッカー大会に職員延べ130名、車両延べ52台を持って現地警備を実施。  
 第20回全国消防操法大会が三木市の兵庫県広域防災センターで開催される。消防本部(署)庁舎の実施設計の変更。



災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(Ⅱ型)消防1



新消防庁舎竣工

平成19年

小型動力ポンプ軽四輪積載車3台を岩宮・花尻・保木班に配備。  
 災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(Ⅱ型)1台を購入。消防署に配置。  
 第13代消防長に常深譲氏就任。消防職員5名採用(総数90名)  
 第4代消防団長に中西君一氏就任。  
 消防庁舎建設の工事始まる。  
 消防救助技術近畿地区指導会事務局業務のため、神戸市消防局警防部救急救助課へ、三木市から事務職員1名を派遣する。  
 はしご付消防自動車のオーバーホールを実施。



ボート取扱い訓練  
(平成19年)

平成20年

小型動力ポンプ軽四輪積載車6台を東這田・殿畑・西這田南・久次・南畑・桃坂班に配備。  
 まとい会の五百蔵幸三氏より、広報車1台と軽四輪消防車2台の寄贈を受け消防署と広野分署に配備。  
 自治体消防制度60周年記念式典に消防長、消防団長、消防副団長が参加。  
 組織・機構改革。「総務課」に管理係・企画係・指令係を、「警防第1・2課」に消防係・警防係を、また「救急救助課」を新設し救急係・救助装備係を置く。  
 消防職員3名採用(うち、1名は消防本部発足後、初の女性消防職員)  
 新消防庁舎完成。  
 庁舎(鉄筋コンクリート造・2階建て延べ面積2,787㎡)  
 備蓄倉庫・一般車両倉庫(鉄骨造平屋建て面積495㎡)  
 訓練塔(鉄筋コンクリート造5階建て延べ面積294㎡)  
 高機能消防指令システムⅠ型(NEC)整備。  
 新消防庁舎竣工式と市民見学会を実施。  
 北播消防協議会、総会をグリーンピア三木で開催する。  
 普通小型動力ポンプ積載車を口吉川機動隊に、平井班、興治班、窟屋班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備し、細川第2分団・前田班・古川班に小型動力ポンプ(B-3級)を更新配備。



高機能消防指令システムⅠ型を整備

## 2009(平成21年)～2012(平成24年)

平成21年

第14代消防長(理事兼防災監)に井上茂利氏就任。  
 消防職員4名採用(総数92名)  
 御坂班・戸田班に小型動力ポンプ付軽四輪積載車を新規配備し、三木第2分団に小型動力ポンプ軽四輪積載車を更新配備。  
 平成21年度秋季兵庫県下消防長会をグリーンピア三木にて開催。

山陽自動車道 多重衝突事故  
災害対応連携訓練

平成22年

兵庫県下消防長会警防事務担当者会議を消防本部にて開催。  
 広野分署に水槽付消防ポンプ自動車(水II)を更新配備。  
 第15代消防長に高谷尚志氏就任。  
 消防職員3名採用(総数91名)  
 総務省消防庁から無償貸与を受けた消防団救助資機材搭載車両を志染機動隊に更新配備。  
 普通小型動力ポンプ積載車を別所機動隊に配備。  
 消防団員リーダー研修として、各地区から消防団員が各種防災知識の習得ならびに実技訓練を実施する。  
 吉川分署に高規格救急自動車を更新配備。

文化財防災デー訓練  
(平成22年)

平成23年

東日本大震災の被災地に、3月11日から4月21日の42日間、兵庫県緊急援助隊として消火隊1隊を派遣し、33名の隊員が捜索・情報収集・火災警戒活動にあたる。  
 普通小型動力ポンプ積載車を三木第6分団に配備。  
 小型動力ポンプ軽四輪積載車を和田班(新規)、渡瀬法光寺班に配備。

救助工作車(消防8)  
(平成24年)

平成24年

資材搬送車を1台購入。消防署に更新配備。  
 東播地区消防本部NBC災害対応訓練を三木山総合運動公園で実施。東播7消防本部・三木警察、延べ75名参加し(県広域消防相互応援協定に基づき)災害対応能力向上、連携強化を図った。  
 消防団にワッペンを採用し機動隊に貸与。  
 救助工作車II型を購入。消防署に更新配備。  
 消防職員2名採用(うち、1名は消防本部発足後、初の救急救命士有資格者)  
 消防団に9隊目の吉川機動隊が発足。  
 7名の隊員が指揮支援隊の委嘱を受け、三木市消防署指揮支援隊発隊。  
 兵庫県広域防災センター、神戸空港島内訓練会場で実施された緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練に救急部隊として参加。  
 消防救急デジタル無線実施設計業務委託。  
 グリーンピア三木グリーンピアホールにおいて、三木防火協会創立50周年記念式典を開催。  
 一般社団法人日本損害保険協会から高規格救急自動車の寄贈を受け、消防署に更新配備。



緊急消防援助隊ブロック合同訓練

## 2013(平成25年)～2014(平成26年)

平成25年

小和田神社で機動隊合同林野火災防ぎょ訓練を実施。  
日本消防協会より消防団多機能型車両の寄贈を受け、吉川機動隊に配備。  
第16代消防長に森本英樹氏就任。  
消防職員4名採用(総数91名)  
3か年計画で消防救急無線デジタル化整備工事に着手。  
小型動力ポンプ軽四輪積載車を吉川第7分団上荒川班に更新配備。  
東京ドームで開催された消防団120年・自治体消防65周年記念大会に団長以下18名が参加。



ポンプ操法訓練  
(平成25年)

平成26年

消防職員5名採用(総数91名)  
兵庫県消防防災航空隊に隊員として職員1名を派遣。  
広野分署耐震診断及び耐震補強計画実施設計業務委託。  
第25回北播消防操法大会が兵庫県消防学校で行われ、別所第3分団花尻班が小型ポンプの部で優勝。  
第43回消防救助技術近畿地区指導会において、西村聡朗土長がロープブリッジ渡過の部で優勝。全国消防救助技術大会出場へ。  
緊急援助隊近畿ブロック合同訓練が和歌山県で行われ、東播ブロックの消火部隊として参加。  
小型動力ポンプ軽四輪積載車を口吉川第5分団西中班・東中班に配備。



第43回消防救助技術近畿地区指導会

第 8 章

資料



**50th Anniversary**

## 歴代消防長



衣巻 顕明  
S40.4.1～S42.3.31



金鹿 秀夫  
S42.4.1～S42.11.30



大原 義治  
S42.12.1～S43.5.31



今井 真治  
S43.6.1～S47.3.31



五百蔵 利治  
S47.4.1～S52.3.31



戸田 良一  
S52.4.1～S55.3.31



北川 真昭  
S55.4.1～S57.3.31



上野 成生  
S57.4.1～S60.3.31



谷川 齊  
S60.4.1～H 8.3.31



大貫 盛行  
H8.4.1～H15.3.31



岡本 忠文  
H15.4.1～H18.3.31



竹中 誠一  
H18.4.1～H19.3.31



常深 譲  
H19.4.1～H21.3.31



井上 茂利  
H21.4.3～H22.3.31



高谷 尚志  
H22.4.1～H25.3.31



森本 英樹  
H25.4.1～現在

## 歴代消防団長



山口 静男  
S38.5.1～S40.4.30



大林 嘉三  
S40.5.1～S58.4.30



小山 伊一  
S58.5.1～H19.4.30



中西 君一  
H19.5.1～現在

# 消防職員

## 職員の配置状況

1本部1署2分署に5課18係を置き、職員91名により多様化する消防業務に対応しています。

(平成27年4月1日現在)

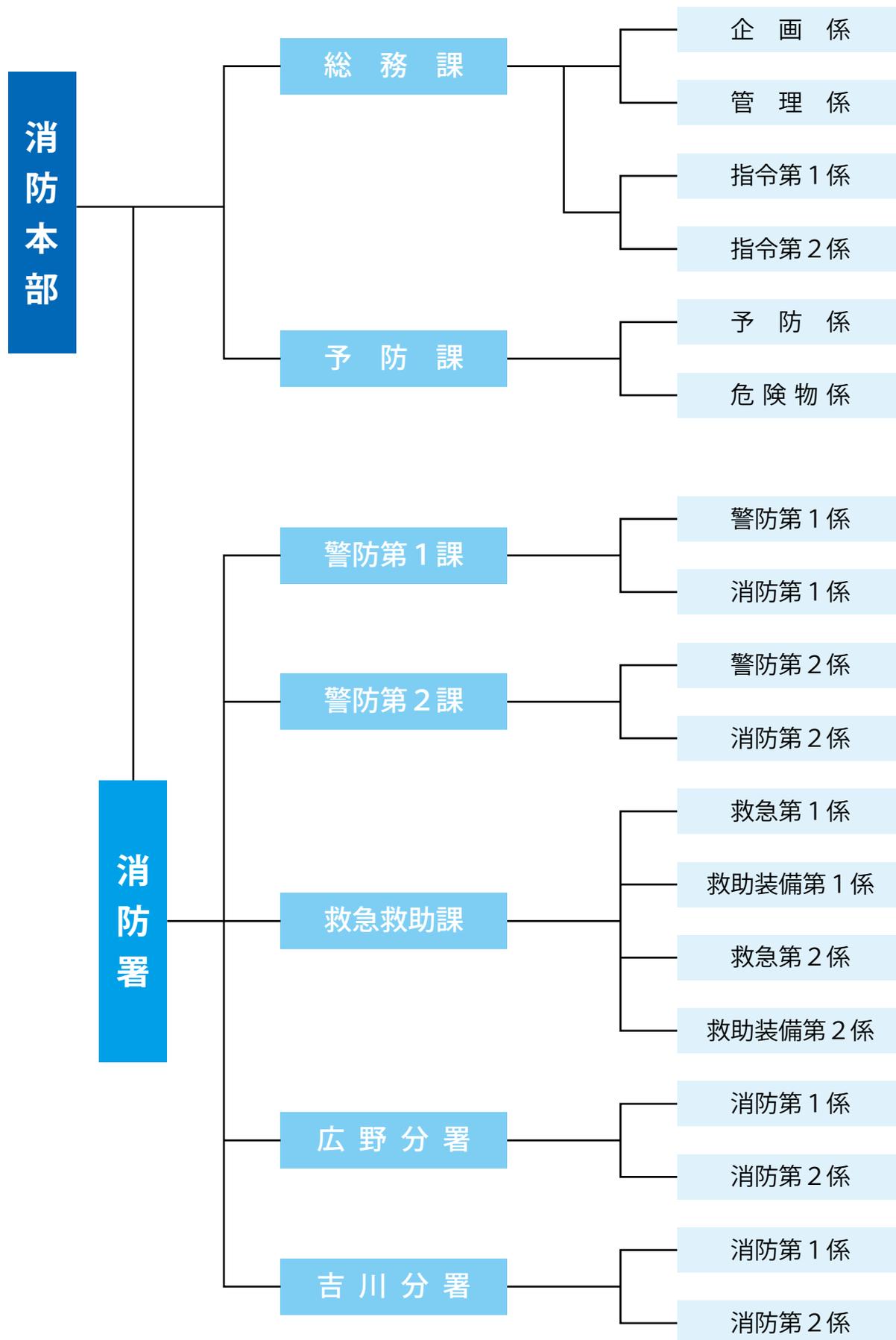
補職名及び階級 所属		消防長	次長 署長 課長 分署長 副課長 副分署長	課長補佐 係長 主査	主任		係員			事務職員	合計	
					司令補	士長	士長	副士長	消防士			
総数		1	17	23	11	5	8	5	21		91	
消防本部	消防長	1									1	
	次長		1								1	
	総務課	企画係		3	2			1				22
		管理係			1			1	1			
		指令係			2	1		1	1			
		派遣				1			7			
	予防課	予防係		2	2	1		1	1	1		12
危険物係			1		1	1			1			
小計		1	6	8	4	1	3	2	11		36	

消防署	署長			1							1	
	1警 2防 課第	警防係		6	3			1				26(18)
		消防係			2(6)	(3)	(1)	2(3)	(1)	2(4)		
		救急係			3	1			1	1		
		救助 課急	救助装備係			2				2		
	広野分署消防係			2	2	4	2			4		14
	吉川分署消防係			2	3	2	2	2	2	1		14
小計			11	15(6)	7(3)	4(1)	5(3)	3(1)	10(4)		55(18)	

( )は兼務

# 消防組織

平成27年4月1日



## 職員年齢構成

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

階級別 年齢別	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
18才～19才						4	4
20才～24才						16	16
25才～29才				3	3	1	7
30才～34才				10	2		12
35才～39才			5				5
40才～44才			9				9
45才～49才			5				5
50才～54才		5	11				16
55才～59才	1	12	4				17
総数	1	17	34	13	5	21	91
平均年齢	59	55	47	31	29	22	39

## 職員勤続年数

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

階級別 年数別	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
05年未満						18	18
05年～09年				9	5	3	17
10年～14年			1	4			5
15年～19年			8				8
20年～24年			6				6
25年～29年			2				2
30年～34年		2	10				12
35年～39年	1	13	7				21
40年以上		2					2
総数	1	17	34	13	5	21	91
平均勤続年数	36	37	27	9	7	2	20

## 消防団員年齢構成

(平成27年4月1日現在)

年齢区分	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	総計
18才～19才							3	3
20才～24才				1			42	43
25才～29才			2	5	8	15	125	155
30才～34才			6	21	29	29	190	275
35才～39才		1	10	20	30	27	195	283
40才～44才		1	12	13	22	20	222	290
45才～49才		1	8	8	11	8	135	171
50才～54才		3		3	2	2	65	75
55才以上	1			1	1	2	33	38
総計	1	6	38	72	103	103	1,010	1,333
平均年齢	62.0	47.7	39.2	37.7	37.5	36.6	38.2	38.1

## 消防団員在職年数

(平成27年4月1日現在)

在職年数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	総計
05年未満			2	4	12	24	257	299
05年～09年			11	23	39	40	171	284
10年～14年		1	10	17	22	10	156	216
15年～19年		3	3	12	16	19	190	243
20年～24年		1	8	10	13	8	132	172
25年～29年			3	6		1	70	80
30年以上	1	1	1	0	1	1	34	39
総計	1	6	38	72	103	103	1,010	1,333

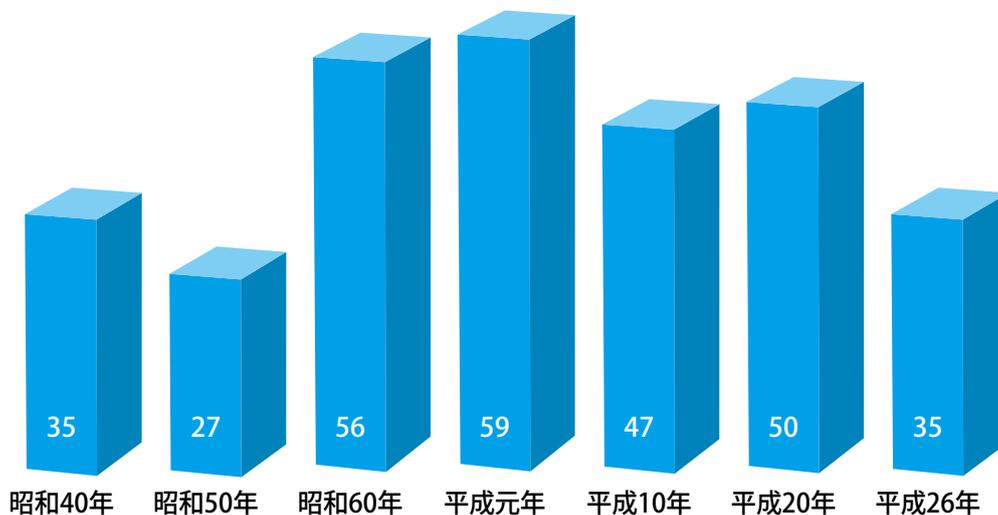
# 消防団分団・階級別実員数

(平成27年4月1日現在)

分団・班名		階 級		分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	計		
		団 長	副 団 長								
団 本 部		1	6	0	0	0	0	3	10		
木	第1分団	宿原・与呂木・平井		0	0	1	2	3	3	21	30
	第2分団			0	0	1	1	1	1	17	21
	第3分団	岩宮・久留美		0	0	1	1	2	2	25	31
	第4分団			0	0	1	1	1	1	14	18
	第5分団	跡部・加佐東・加佐西		0	0	1	2	3	3	33	42
	第6分団			0	0	1	1	1	1	13	17
	第7分団	平田・大村・烏町		0	0	1	2	3	3	43	52
	第8分団			0	0	1	1	1	1	14	18
	小 計		0	0	8	11	15	15	180	229	
別 所	第1分団	高木・小林		0	0	1	1	2	2	32	38
	第2分団	東這田・興治		0	0	1	1	2	2	32	38
	第3分団	西這田南・西這田北・花尻		0	0	1	2	3	3	35	44
	第4分団	石野・下石野		0	0	1	1	2	2	32	38
	第5分団	正法寺・和田		0	0	1	1	2	2	19	25
	小 計		0	0	5	6	11	11	150	183	
志 染	第1分団	戸田・三津田・御坂		0	0	1	2	3	3	41	50
	第2分団	大谷・井上・志染中		0	0	1	2	3	3	31	40
	第3分団	窟屋・高男寺・細目		0	0	1	2	3	3	33	42
	第4分団	安福田・東吉田・吉田		0	0	1	2	3	3	35	44
	第5分団	四合谷・広野		0	0	1	1	2	2	20	26
	小 計		0	0	5	9	14	14	160	202	
細 川	第1分団			0	0	1	1	1	1	17	21
	第2分団			0	0	1	1	1	1	14	18
	第3分団			0	0	1	1	1	1	14	18
	第4分団	増田・豊地・佐野		0	0	1	2	3	3	24	33
	第5分団	金屋・桃津・高篠・高畑		0	0	1	3	4	4	33	45
	第6分団	細川中上・細川中・西・脇川		0	0	1	3	4	4	30	42
	小 計		0	0	6	11	14	14	132	177	
口 吉 川	第1分団	久次・里脇		0	0	1	1	2	2	18	24
	第2分団	槇・大島		0	0	1	1	2	2	28	34
	第3分団	笹原・殿畑・南畑		0	0	1	2	3	3	24	33
	第4分団	保木・楢原・三和		0	0	1	2	3	3	24	33
	第5分団	東中・西中・桃坂		0	0	1	2	3	3	23	32
	小 計		0	0	5	8	13	13	117	156	
吉 川	第1分団	稲田・金会・福吉・毘沙門		0	0	1	3	4	4	35	47
	第2分団	市野瀬・東田・楠原・奥谷		0	0	1	3	4	4	37	49
	第3分団	豊岡・南豊岡・南水上・北水上		0	0	1	3	4	4	31	43
	第4分団	吉安上・吉安下大沢・大畑・西奥・米田		0	0	1	4	5	5	36	51
	第5分団	鍛冶屋・貸潮・渡瀬法光寺・出晴		0	0	1	3	4	4	29	41
	第6分団	山上・長谷・上松・田谷・湯谷		0	0	1	4	5	5	29	44
	第7分団	新田・上荒川・畑枝福井		0	0	1	2	3	3	21	30
	第8分団	富岡・前田・上中		0	0	1	2	3	3	27	36
	第9分団	古川・実楽・古市・有安		0	0	1	3	4	4	23	35
	小 計		0	0	9	27	36	36	268	376	
合 計		1	6	38	72	103	103	1010	1,333		

## 火災の推移

	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成元年	平成10年	平成20年	平成26年
件数	35	27	56	59	47	50	35

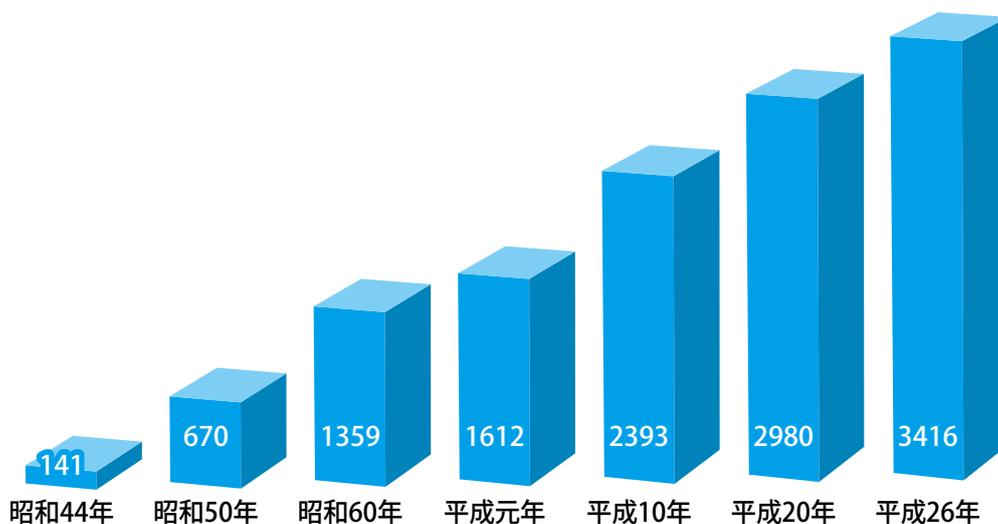


年間平均約50件の火災が発生している。

最も多く火災が発生したのは昭和59年の82件で、最も少なかったのは平成16年の34件であった。

## 救急の推移

	昭和44年	昭和50年	昭和60年	平成元年	平成10年	平成20年	平成26年
件数	141	670	1359	1612	2393	2980	3416

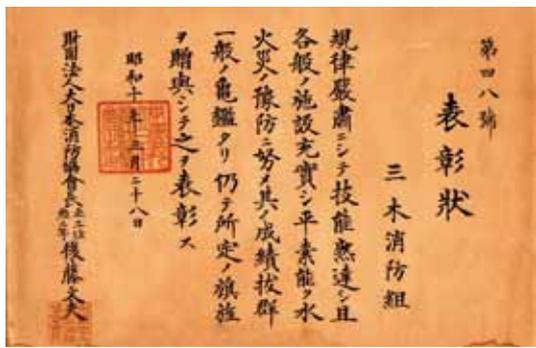


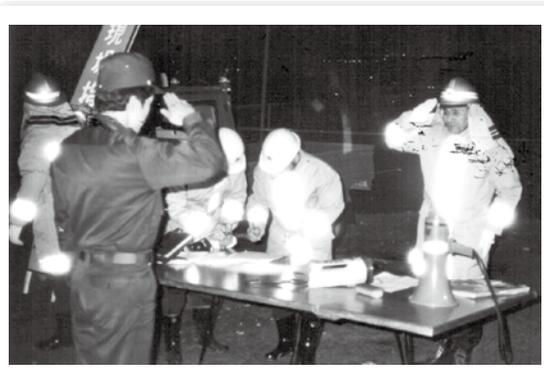
救急出場件数は年々増加している。

最も多く出場しているのは平成26年の3416件で、最も少なかったのは昭和44年の141件であった。

## 三木市「まとい会」

1. 目的 この会は、会員相互の親睦を図り、もって福祉の増進と助けあいを期すること。
2. 会員 この会は、三木市発足以後に退団せる団長、副団長及び消防長、消防署長、次長並びに現職の団長、副団長、消防長、消防署長をもって組織する。
3. 結成年月日 昭和41年4月1日
4. 事業活動 目的を達成するため、会員相互の密接な連携を図るとともに、年1回の懇親会を開催、慶弔等に対し、弔慰及び祝意を表している。また、兵庫県まとい会の理事会、総会、研修会等に参加し、防火思想の普及啓発に努め消防本部、署、消防団に対してよき指導機関として貢献している。
5. 会長 魚住 丑之助 (S41～S55)
- 大林 嘉蔵 (S55～S57)  
(会長代行)
- 宮脇 初治 (S57～H元年)
- 大林 嘉蔵 (S63～H6)
- 大杉 博康 (H7～H8)
- 五百蔵 幸三 (H9～H10)
- 小舟 明 (H11～H14)
- 中井 昭八郎 (H15～H20)
- 岸本 利運 (H21～H24)
- 五百蔵 征幸 (H25～H26)
- 小西 雅大 (H27～現在)





# 三木市消防本部50周年記念誌

---

平成27年10月31日印刷

平成27年11月 1日発行

編集／三木市消防本部発足50周年記念事業実行委員会

発行／三木市消防本部

〒673-0433 三木市福井1933番15

印刷／株式会社 前田精版印刷

## 三木市消防本部発足50周年記念事業

### 実行委員長

藤原 秀行

### 実行委員

長谷川秀明

定 忠司

中井 雄大

大東 成吉

中井 正実

寺西 克仁

### 事務局

高寄 利朗

林 一成



**MIKI CITY FIRE DEPARTMENT 50TH ANNIVERSARY**